

四季のおたより

平岡公園町内会 NO.10

・令和 元年 7月 1日
・平岡公園会館 ☎884-5566
清田区平岡9条4丁目2-10

福祉厚生部から活動のお知らせ



講座

心配事は関係機関へ相談を

清田区社会福祉協議会 事務局長 大石 純

皆さんの見守りに関する活動をお聞きし、とても参考になりました。また、高齢者世帯などの暮らしに心配りが進んでいる分、この町内会は平穏な安心感が広がる地域なのだなと感じています。

地域住民同士の助け合い活動を進めていく中で、どの様に対応すればよいかという問題に直面する場面もあるかと思えます。そんな時は区役所をはじめ、社会福祉協議会や地域包括支援センター、介護予防センターなどの相談窓口へお気軽においでください。世間では、東北や北海道の人は「助けてほしい」となかなか言わないとされています。相談に来る方も、かなり事が進んでから来られるケースが多いようです。

清田区内のある地域で「近所を徘徊する人がいる。スーパーで何度も同じ買い物をしたりしている」との声がありました。2カ月かけてその方が特定され、専門機関が対応することになりました。今、福祉の現場からは「親が80代子どもが50代」で生活が困窮する“8050”

（ハチマル ゴーマル）問題”の危うさが指摘されています。

区内でも、80代の母親と50歳近い、持病を抱えた息子さんの事例で、こちらから息子さんに声をかけても、息子さんは「大丈夫。俺が母親の面倒を見ているから」と、行政のサービスを受けようとしません。

どうかこれからも、独居高齢者や健康面から社会生活に不安を抱えている方などに、見守り・声かけの活動を進めていただければとお願いいたします。（見守り活動推進会議 ↓ ）



令和元年
見守り活動推進会議を開催

令和の時代に入って初めての「見守り活動協力員推進会議」が6月20日（木）平岡公園会館で開催されました。ここでは、災害時の避難を想定し、日頃から見守り・声かけ活動に取り組む協力員たちが、活動例を報告したり活動上の悩みや課題などを語り合いました。近隣の高齢者世帯をはじめ、気がかりな方へのさりげない見守り活動の進め方について学び合った後、清田区社会福祉（日常的な見守りの様子を示す絵）



協議会の大石事務局長から「地域での社会福祉」についての講座が開かれました。

◇「見守り・声かけ」活動の記録 ◇

平成30年12月～令和元年5月までの記録

	活動内容	対象の方	気がかりな方
1	訪問・対話（インターフォン含む）	233回	119回
2	戸口などからの見守り	154回	56回
3	電話での声かけ	17回	3回
4	路上、店舗などでの声かけ	56回	33回
	計	460回	211回